

公表

## 事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		社会福祉法人恵友会 こども発達支援センターびーチ		公表日		令和7年3月4日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100	0	・規定の倍以上のスペースがあり、活動に応じて療育室を2つつなげたり、パーティションで個別に分けたりすることで適切なスペースを作り集団療育を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100	0	・子どもの人数やメンバーに応じて、国の規定の3倍近い職員配置で、比較的個別に向き合える体制を整えている。また、多職種が常に療育に入るようにし、多面的支援を心がけている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100	0	・生活空間を視覚的に分け、どこで何をするのかをわかりやすく伝えている。また、日課ややるべき時間帯をホワイトボードに掲示し、自分で見直しを持てるようにしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100	0	・身長や発達段階などに応じてイスや机などを変えながらその子にあった環境設定をしている。また、活動内容や参加人数に合わせて、療育室やテラス、庭庭などを活用している。 ・エアコンや室温計、加湿器などを設置することで、適切な空調を管理することができている。 ・消毒や清掃を日々適宜行っている。	・物の置き場所や量などを見直し、環境美化の係を中心にさらに良い環境づくりを行えると良い。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100	0	・宿題を希望するお子さんに関しては、宿題を集中して行えるよう、相談室等の個室やパーティションなどの空間仕切りを利用できるようにしている。 ・体調不良や集団生活の中で切り替えなどが必要になった際には、静養室などを使用して落ち着ける空間を確保している。	・本館、分室と部屋はたくさんあるので、職員体制も考慮しながら、いろんな部屋に使い方を探っていけると良い。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100	0	・各委員会の中で、それぞれ担当の分野を事業所内、もしくは法人内で見直し、改善に努めている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	・年1回のアンケートだけでなく、保護者会で意見を日頃の保護者とのやり取りの中でいただいた案や希望等もその都度取り入れている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	・放デイ内でのミーティングやびーチ全体のミーティング、ケース検討等の機会を設けることで、情報の共有や改善の提案を行っている。 ・事業所評価や上司との面談で案や意見をだし、業務の改善や検討を行うことができている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	87.5	12.5	・外部の方の事業所見学や実習生の受け入れにより、外部評価・業務改善に繋げている。また、行政の方と事業所アンケートを振り返る機会をもち、地域の中核的機能事業所として求められていることを確認している。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100	0	・施設内研修会や法人内研修会を定期的に行い、継続して学べる環境を作っている。また、外部の研修に参加した際には、伝達研修を必ず行い、知識や情報の共有を図っている。		

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100	0	・支援プログラムは令和7年3月よりホームページにて公開している。	・時代や国の流れに合わせて、その都度支援プログラムを見直せるようにしていく。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100	0	・その都度変化する子どもの様子や保護者のニーズを把握し、計画を作成している。 また、新規利用児や年度切り替え時には、アセスメントをとり、ニーズや発達段階の確認を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100	0	・ミーティングや日々の振り返りの中で家族の希望と共に、お子さんの発達段階や発達課題に基づいて審議を行い、最適な支援を行えるように心がけている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100	0	・支援計画を中心に、お子さんや家庭の状況が変わるたびに支援の内容を見直し、職員間で共有している。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100	0	・毎年4月にインフォーマルなアセスメントシートで情報の確認や更新を行っている。 ・学年の切り替え時に必要であれば、WISC IVや田中ビネーなどをとり、家族や教育委員会と確認している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100	0	・利用児の発達段階に合わせて事業所の中で「やりたいこと」「好きなこと」などを確認し、計画の中に入れ込みながら療育内容を考えている。 ・現状と今後の方向性を踏まえ、支援内容を決定している。また状況が変わるたびに内容の見直しを保護者と相談している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100	0	・大きな行事などはその都度チーム内で協議し、計画している。日々の療育は、基本的には週のリーダーが中心となって立案し、活動前後に職員間で共有する形で進めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100	0	・自立面や身体機能面、食育等も考慮している活動にチャレンジしている。園芸からクッキングまで、ひもづけて活動を体験していくことで、実生活にも結び付きやすいようにしている。 ・季節を感じられるプログラムを意識して組んでいる。また、子どもたちからも意見をもらい、一緒に計画している。 ・火、木曜日は特別支援学校の小学部のみ早帰りなので、小学部はいつもの活動内容、中等部は就労に向けた作業的な活動を取り入れ、子どもたちの発達課題にあわせたプログラムを今年度から意識している。	・就労など将来に向けたプログラムの充実や外出レクの充実も活動に取り組みるように検討したい。 ・活動のレポーターを増やせるといいと思う。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100	0	・発達段階や発達課題に応じて、集団療育と個別療育の使い分けをしている。また、現状に合わせ、その都度お家の方とも相談し、徐々に移行するなど、随時支援の仕方を変えている。	・職員体制の都合がつけば、バリエーションを増やしていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100	0	・朝のミーティングで毎回その日の利用児童や注意事項などを共有し、統一した支援が行えるようにしている。また、電話や送迎などで保護者と関わる可能性がある職員とも共通認識を図っている。	・ミーティングに参加できない職員も共有できるようにミーティングノートを作っているが、ノートに記載する際に多少主観が入ってしまうので、記録のとり方などもスキルアップできると良い。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100	0	・勤務時間にズレがあるので、全員では難しいが、参加できる職員で毎回振り返りを行っている。次の日も朝のミーティングでは、児発の職員も含めて、施設全体で共有している。	・長引いてしまうことがあるので、時間を決めて効率的に行うことを意識していく。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100	0	・日誌、ケース記録を毎日作成し、支援状況の共有・改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100	0	・時期や必要に応じてモニタリングや個別相談を行い、その時にあった支援内容に変更している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	100	0	・基本活動をベースにするのはもちろん、子どもの発達段階に合わせて能力を発揮できるよう支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100	0	・自分で気持ちや要求を伝えづらいお子さんには、選択肢やYES、NOで選ぶ機会を設け、自己決定できるようにしている。また、係決めや活動選択など自己発信する機会を意図的に用意することで、対人への意識やコミュニケーションの必要性を高められるように支援している。	・家や学校とも共有し、どこでも受容してもらえるコミュニケーション・自己決定のスキル獲得を促していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	93.8	6.25	・担当者会議には、可能な限り参画している。	・相談支援員とも連携し、なるべく担当者会議を開けるように働きかけていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100	0	・送迎時に学校の先生と情報を共有することで、統一した支援が行えるように意識している。また、教育委員会とも連携を図り、在籍クラスの変更の際には、知能検査の進め方など、確認を行っている。	・情報交換を積極的に行いながら、良い関係を築き、子どもにとって最適な支援を行えるよう、今後も地域連携を深めていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100	0	・書面や電話、送迎時のやりとりの際、学校との情報共有、連絡調整を行っている。月ごとに利用児の一覧を学校に送付するなど、視覚的にも漏れがないように工夫している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	93.8	6.3	・基本的にはびーちの児童発達支援事業や保育所等訪問支援事業を利用している子が多いので、比較的情報共有が出来ていると思う。教育委員会ともつながりが深いので、地域の中では関係性が出てきている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	93.8	6.3	・今年度は対象の子どもがいなかったが、対象児童がいる際には、就労施設とも連携を図り、支援の仕方や特性などを共有している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	93.8	6.3	・本施設が児童発達支援センターで県から地域支援マネージャーの業務も受託しているため、外部に向けたスキルアップ研修などを積極的に行っている。	・今後も中核機能事業所として地域の中で支援者支援にも力を入れていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	75	25	・年に数回ではあるが、法人内の他事業所との交流や外出レクなどで地域の方とやりとりをしたり、一緒に過ごしたりする機会をもっている。	・回数的に十分とは言えない状況なので、今後も新しい企画を計画し、地域の中での在り方など検討していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	100	0	・さくら市の自立支援協議会だけではなく、県の地域支援マネージャーとして、他の地域の自立支援協議会にも参加し、地域二卒の確認を行っている。	・地域によって、抱えている課題や置かれている状況も違うので、今後も地域二卒に丁寧な目を向けていく必要を感じる。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100	0	・毎日お迎えの際に振り返りを行い、学校や家庭での様子を共有できるように心がけている。両親以外の人がお迎えに来ることもあるので、LINEなども活用し漏れがないように気を付けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100	0	・毎年ペアプロ・ペアトレや各種勉強会を行っている。また、支援者養成型の研修なども開催している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100	0	・契約時や利用料変更修正があった際にその都度説明を行っている。報酬改定の際には、しばらく玄関に掲示するようにしている。	・その都度説明しているつもりではあるが、非常に細かく難しいので、保護者の方がどこまで理解しているかも確認しながら丁寧に説明できるように気を付けていく。

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100	0	・話せる子には、直接意思の確認を行っている。保護者の意向もその都度確認するように心がけているつもりである。	・保護者のニーズとお子さんの発達課題や発達段階がずれていることもあるので、相談支援員も交えながら、お子さんにとっての最適な利益を考えらえるようにしていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100	0	・現場職員だけではなく、お家の方が話しやすい職員を指名して話せる機会を設けている。 ・家族等からの相談があった場合、内容によっては速やかに児発管・管理者に報告したうえで適切に対応できるように心がけている。 ・送迎時以外でもLINEや電話等で相談・悩みをいつでも話せる場を設けている。	・進学・就労に向けた将来像も確認しながら、相談にあたるように、就労施設や通信制高校のことも幅広く職員自身が理解できるように努めていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	75	25	・保護者会は1回実施。勉強会なども実施している。	・兄弟も参加できる内容を充実させることも必要。(外出レク) 定期的な開催は今後検討したい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100	0	・施設長、児発管、現場職員と状況に応じて連携しながら対応できている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100	0	・LINEやお便りなどをおとして、行事予定や連絡などを行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100	0	・個人情報の同意書に基づき十分留意して取り扱っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100	0	・連絡ノートやラインを活用し、視覚的に確認できるようにしている。 ことば遊びや写真や実物提示を取り入れ、共通認識を図っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	68.8	31.2	・コロナ等の影響もあり、行事の招待は行っていないが、地域団体による視察は行った。ヘアプロペアトレに地域の方にも参加してもらえるようにしている。	・今後は地域住民との交流の機会を増やしていきたいようにしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100	0	・定期的に避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100	0	・てんかん時の対応など、送迎中も慌てないように、車中にも対応マニュアルを入れている。 ・また、血糖の確認もその都度行い、おやつや活動への参加の仕方を検討しながら行っている。	・看護職員の配置も含め、今後の体制を検討していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	93.8	6.2	・アレルギー対応が必要なお子さんに対しては、対応指示書を提出してもらっている。 ・持病への対応なども服薬指示書や同意書をもらい、その都度保護者とも確認をとってすすめている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100	0	・衛生管理委員会が中心となり、年間を通して計画的に研修や練習を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	93.8	6.2	・契約時や年度切り替え時には、避難場所の案内を必ず行っている。	
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100	0	・事案発生時には、ヒヤリハットノートに内容、改善策を記録し、朝のミーティングで全職員に周知・注意喚起を行っている。	・ヒヤリハットにならないように、研修などで安全管理や衛生管理、適切な支援の仕方などを学べるように今後もしていく。	

	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修への参加、職員会議での研修を実施し、全職員で共有している。</li> <li>・正しい支援の仕方・メンタルヘルスなどもあわせて研修を行っている。</li> <li>・また、研修の時だけでなく、職員会議や朝のミーティング等で話題に出している。</li> </ul>	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	93.8	6.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束を行う可能性については、お子さんの状況によってその都度保護者の方に説明・相談し、共有できるようにしている。</li> </ul>	